



# 二十六聖人

令和2年7月号

(令和2年6月28日発行)

教会だより

2020.7 No. 327

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296  
<http://www.futamatagawa-cc.com/>  
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

## 公開ミサの再開に当たって

宗教的な儀式の厳しさにおいては、どんな宗教も自分なりの厳格さは持っていると言えます。カトリック教会の典礼も例外ではないので、昔から厳しくて、あまり易しくないというイメージがあるでしょう。それで特別な知識や経験が必要な分野だとよく言われています。勿論、ある程度のそういう知識とか経験も必要ですが、もっと基本的には霊性が求められます。その霊性とは色々複雑な説明が要求されるものですが、個人的に一言で纏めたら「神様を愛し、隣人を愛する心、或は、魂」という言葉で言えると思います。

さて、普通、侍者の活動は子供の時から始めますが、わたしの場合は子供の頃、教会に通いたくなかったもので(?)、友達よりも遅れて中学校3年生から始めました。当時の典礼の雰囲気や侍者隊の規則は本当に厳格だったので、例えば、一度間違えたら、罰として何回もの侍者の奉仕を連続してやらねばなりませんでした。また、隊長と呼ばれる一番上の先輩の権威も高かったです。それで侍者達の規律が乱れたら、隊長に怒られたり、時には、全員隣にある学校のグラウンドに集められて厳しい罰を受けたりしました。その時代、侍者の役割の中で一つはミサの途中で祭壇にやって来る赤ちゃんを世話することでした。何も知らない赤ちゃんたちが祭壇に向かって歩いてくるような様子を見たら、侍者たちは緊張しました。どんなタイミングで祭壇から降りてその子を世話するか、どうやって泣かせないで保護者の席に連れて行くか、保護者の席はどちらかなど、侍者の頭の中には自分の典礼奉仕者としての役割や赤ちゃんのことでいっぱいになります。それで侍者はミサの最後の最後まで緊張の糸を切ることができませんでした。そう言う様々な役割が時にはストレスになったこともあります。経験が積み重なれば重なるほど、柔軟な姿勢を学び、一人前の侍者として賢く対応することができるようになるのです。そして、もっと重要なことは様々な役割や規則に捕らわれることなく、全てに対して「川の流れのような」心で応じることの大事さや他人を世話することこそ典礼の精神を生かすことなのだということを知ることでした。自画自賛のような気がしますが、私の司祭召命はそのように育まれたと思います。

新型コロナウイルスのために、およそ105日間、教会の公開ミサが中止されましたが、ようやく再開できて、本当にうれしいです。信者の皆さんのほとんどが、経験したこともない形のミサですが、ある意味では「ミサの素直な姿」と向き合う機会でもあると思います。その姿は人間の思いや活動をはるかに超えておられるイエス様ご自分の姿でしょう。それはご自分の命さえ惜しまず捧げるほどの神様と人間に向かう愛そのものです。再び始まる公開ミサ！イエス様の愛を記念する喜びと感謝の祭儀の中で、神様と隣人への愛を改めて学ぶことはどうでしょうか。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

## 公開ミサ再開、その静かな喜びの時

公開ミサ再開対策チームより、再開された公開ミサについて報告させていただきます。

2月の末からの公開ミサ中止から3ヶ月以上が経ち、いよいよ信徒が共に集って捧げる“公開ミサ”が段階的に再開されました。まず姜神父様がお手紙をもって私たちに、ごミサに再び与り、そして捧げることについての大切なことを教えてくださいました。そして発表されたガイドラインに基づいてごミサに集まるために『公開ミサ再開対策チーム』が結成され、ミサ前後の対策について準備が綿密に進められてきました。チームのメンバーは、教会委員会常任委員、事務職員、地区連絡室(地区ごとにミサが再開される為)、教会委員会サポートチームです。

6月13日よりミサが再開され、ミサ定員原則45名のところ、これまでのミサの参加人数はどの地区も30名前後(地区の担当者10名含む)でした。聖歌、オルガン、侍者、朗読、共同祈願等、信徒の奉仕は全て無し。全て司祭が行い、約40分のごミサでした。

聖堂内はミサの前から沈黙の祈りに包まれ、そこは『祈りの場所』でした。

参列されたのは殆ど当該地区の方でしたが、他地区の方や未信者の方、連絡が行き届いていなかった外国籍の方も数名来られました。ガイドライン等を渡して説明し、ご理解いただくことができました。

事前にお手伝いをお願いしていた各地区の担当者の皆さんには、前庭での案内、ミサ前の検温、名簿チェック、手指消毒、配布物渡しをそれぞれ担当して頂き、ミサ後の除菌清掃も行っていました。コロナ対策については個人個人に様々なお考えがあると思いますが、その中で皆さん大変協力的にお手伝いいただきました。ミサ前のチェック等は緊張感のあるものでしたが、マスクの下は皆、笑顔だったと感じました。

ミサの再開にあたっての対策は、必要に応じて順次見直して参ります。もっと多くの共同体の皆さんのご協力をいただけましたら幸いです。お気づきの点がありましたら対策チームにお声掛けください。

公開ミサ再開対策チーム マリア・ローザ O.Y.

## 新しいミサに与って

6月13日土曜日、3ヶ月半ぶりの主日ミサに二俣川南地区はトップバッターとして与りました。未曾有のコロナウィルスは私たちの想像を絶する事態を引き起こし、四旬節、御復活、聖霊降臨などの大切なミサがすっぽり抜け落ちました。共同体としてミサに与れないことは誰にとっても大きなショックだったと思います。姜神父様は互いの命を守る為にミサの中止を決断されましたが、この砂漠を彷徨かのような間、神父様は常に信徒に向けて主日のお説教と夜9時のミサを通して、私たち共同体はミサが無くても、会えなくても、イエス様のうちに一つであるという励ましを送り続けて下さいました。

待ち焦がれたミサの日、朝から何も手に付かずドキドキ、ソワソワ！久しぶりに教会に訪れた皆さんも、緊張とミサに与る喜びが交錯していたように思います。信徒の皆さんを迎える徹底した感染予防の説明を聞きながら、互いの命を守り二俣川教会から感染者を出さないという神父様の強い思いが感じられ有り難く思いました。

久しぶりに聴く姜神父様のミサは穏やかで、静かな喜びに溢れていました。歌も無く、オルガンの響きも無い静寂のうちに聴くイエス様の声。神父様が聖堂を回って一人ひとりに御聖体を配られた時、イエス様が私を訪問してくださったと感じました。静寂の中で味わう御聖体の甘美な味！静寂の中だからこそこの甘さに気が付いたように思えました。新しいミサの様式はイエス様との新たな出会いと喜びを与えて下さったように感じます。

この新しいミサの形がいつまで続くか、教会の活動や行事がいつ再開されるかは誰にも分かりません。分かることは、私たちは新たに変わらなければならないということだけです。生活、考え、環境への配慮など、変わらなければならないことは少なくありません。神様の内なる声に耳を傾けながら、新しい生き方を模索して行こうと決意を新たにしています。

最後に、公開ミサ再開に向けての綿密な計画を準備された神父様と、それを忠実に準備し実行して下さった公開ミササポートチームの皆様にご心から感謝致します。

二俣川南地区 セシリア I.N.

この二俣川南のごミサの写真と動画を教会 HP の「共同体コンテンツ」の「信徒フォトアルバム」からご覧いただけます。

## ミサに与れる喜び

6月14日、3ヶ月半ぶりに二俣川北地区のミサに与ることができました。公開ミサに向けて地区世話人が招集され、姜神父様のお考えと、留意すべきことの説明、協力の仕方を伺いました。東京教区、菊地大司教様のオンラインでしか与れなかったミサが、人数に制限があるものの、再開されることになり心が嬉しさで溢れました。

お聖堂は、静寂に包まれ教会が新にされているような感じでした。神父様の一言一言が心に染み入りました。御聖体拝領を待つ間の沈黙しばらくぶりに頂く命のパンは味わい深かったです。

信仰の浅い私にとってのこの3ヶ月半は、朝・昼・晩の祈りと、ロザリオが日課になる意味深い時でした。そして二俣川教会の保護の聖人、日本26聖人殉教者がミサに与れないばかりか、祈ることも認められず、苦しみの中で信仰を守り続けたことに、小指の爪の先ほど想いを感じ取ることができたことは大きなお恵みです。

ミサ再開にあたっての、姜神父様の温かいご配慮、ミサ再開対策チームの入念なご準備に心から感謝申し上げます。

二俣川北地区 マリア・ヨゼフィーナ K.N.

---

### 二俣川南・二俣川北・左近山三地区からの声

- \* ミサ再開に当たり感染防止の為に計画し、徹底した準備をして下さった神父様、関係された方々に感謝とお礼を申し上げます。聖堂の指定された席はほぼいっぱいだったように思います。待者もなく神父様お一人でたててくださるミサに与り、3カ月余振りの神父様の言葉を噛み締めました。ご聖体拝領も席から動くことなく神父様が回って来られるのを待ちました。
- \* こんな時期なので仕方ありませんが、普通のごミサに早く戻ってほしいです。知り合いの方のお顔を見ても、以前のように話せないことがとてもさびしいです。
- \* 残念ながら先日の土曜日のごミサ、担当地区ではありましたが、結局体調を考え行けませんでした。でも、お知らせを通じて、ミサ公開にあたっての感染予防の為に工夫を知りました。そこで思うのは三か月以前の教会にそのまま戻る事を考えるのではなく、新しい息吹を吹きこんでくださる聖霊に導かれて、新しい教会の形を模索していく時なんだなあという事です。集えなかった分、信仰で繋がっている兄弟姉妹への想いは深まりました。わたしは新しいスタートを切った共同体の交わりのうちにご聖体をいただく日を待ちこがれています。

**【編集後記】** 公開ミサが再開されました。3月から今までの約4か月間がとても長かったような、逆にとても短かったような、不思議な感覚になっています。神父様をはじめとする多くの方々のご尽力のお陰で、二俣川教会の皆さまは久しぶりに安全にごミサに与ることができました。この大きなお恵みに感謝したいと思っています。でも、まだごミサの順番が来ていない地区もありますし、体力が十分ではなくて、ごミサに与る機会を活かせない方もおられることでしょう。この4か月をどう過ごしたか、どんなことを考えていたか、再開されたごミサに与った感想などの皆さまの思いを、引き続き文章にして広報にお寄せください。本来ならば、そのような皆さまからのご寄稿は『世の光』に載せるべきなのですが、コロナの影響で通常とは異なる状況になっています。ご理解をお願いいたします。(N.F. 記)